



新チーム、新たな気持ちで -肌で感じる 10日間- The First Visit by the New Members -10 days full of live experiences-

ルンビニPJでは、11月15日(金)から25日(月)にかけて現地調査を行いました。代替わり後の新チーム、黒瀬助教・特任研究員 森・M1 瀬川・高梨・商(国際研)による初めての訪問となりました。その様子をM1 高梨、瀬川より報告します。

新しく代替わりしたチームの初めての訪問となった今回の調査の目的は大きく2つありました。

まず、アジア開発銀行が検討している、ルンビニ内での補助的な交通手段としての電気自動車の導入についての基礎調査です。訪問者にヒアリングを行い回遊ルート及び敷地内の訪問先を把握し、敷地内の各寺院の意向を尋ね、検討ルートの空間的な実現可能性を測量しながら検証しました。

2つ目は、ルンビニ及びその周辺の仏教遺産に隣接した集落の基本調査です。これから始まるユネスコのミッションの第二フェーズが、広範囲に散らばった仏教遺産の保全手法の検討であることをふまえて、周辺集落の

現状について調査しました。ルンビニ近辺の集落は宿泊施設を営むジュピターさんに、周辺仏教遺跡近辺の集落は2日間かけて周辺集落出身のホテルマンのグルさんに、通訳・案内をしていただきました。人口の把握や地図の作成という基本的な調査から、井戸などの共有施設の位置、カースト制度と家の配置の関係、仏教遺跡が生活にどれほど組み込まれているかなど今後中心となりそうなトピックについてのヒアリング調査まで行いました。

全体的に盛り沢山の10日間になりましたが、直接現地に触れることができ、実りの多い調査になりました。



▲地道な交通調査



▲ Tilaurakot の西側の集落 Shivgad



▲早朝に祈る僧侶



▲セントラルリンクの橋上で休む僧侶



▲ Tilaurakot 内の木の下で子供のお祝いが行われる



▲夜に祈る巡礼者

交錯する様々な思い、ルンビニの今後

text_segawa

初めて訪れたルンビニは、写真や模型から想像していた場所とは少し異なっていて、思った以上に暑く、思った以上に晴れやかな場所でした。早朝のお坊さんたちや夜の巡礼者のお祈りは思わず息を呑むほどの美しく、神聖な光景で、ルンビニという場の重要性を認識することができました。一方で、観光を促進させたい現地の方々、自分の仏教への貢献度を誇示したいそれぞれの宗派や、少しでも長く聖地で過ごしたい巡礼者の方々など様々な思いが交錯している場であることを肌で実感しました。

また、周辺の集落の調査を行った際、柵で囲まれた仏教遺産の静けさとは対照に、柵のすぐ横で、作物を育て、収穫し、屋外のキッチンで調理をし、外の井戸でお風呂を浴びるなどの生活の賑わいがそこにはありました。その様子を見ながら、今後伸びる観光客の数を想定した時にどのような計画が遺産とそこに住む人々の生活を両立させることができるのか、その理想に少しでも近づけることが出来れば、と思いました。

"まち大コーナー第7弾!"

A Message from MPS Student vol.7!

まちづくり大学院で学ぶ方々からお話を伺う連載企画。第7弾は、株式会社オクトプランニング&デザイン代表取締役の大木さんが登場です。

【変わらないもの・変わっていくもの】

1996年、東京藝術大学デザイン科の修士課程を修了、株式会社山手総 合計画研究所(横浜市中区)に入社、主に横浜や鎌倉・湘南エリアの都市計画、ランドスケープデザインを担当しました。2002年に独立、現在は自社代表として官民に跨る都市デザイン業務に携っています。サラリーマン当時、市街地プランの策定や道路、公園などの設計業務を通じて、数多くの市民や行政職員と意見を交わし学ばせていただいた



▲チャージングセールで賑わう“元町商店街”

たことが今日の仕事につながっています。

近年は多くの自治体で地域の自主的な取り組みを支援する制度等が整いつつあり、街並み、景観といった観点でローカルルール上の位置づけや策定に向けた手続きについて、商店街組織、地域自治組織等から直接依頼されることも増えてきました。まち大では仕事上で現在も関わりの深い元町商店街(横浜市中区)をモデルに、都市空間の変容と地域活動が創生される過程を調査し、それらがどのように継承されるべきかについて研究しています。

都市には変わらないものと変わっていくものの混在と融合があり、どのような地域であっても人々の営みや空間に必ずそれが垣間見える。様々な地域、現場に関わって常に実感することであり、それが都市の魅力であると思います。

まちづくり大学院 5期 大木 淳



▲景観形成基準を策定した“プレーメン通り商店街”



▲当時設計を担当した“日本大通り”

第12回 APSA 開催!

D2 宋知苑

11月1日(金)～3日(日)の3日間、台湾・台北市にある国立台湾大学にて the 12th International Congress Asian Planning Schools Association(APSA)が開催されました。我ら、デザ研からは会長を務める西村先生を筆頭に、OBのポンサンさん、特任研究員の森、D2の李と宋の4人が参加しました。また、姉妹研究室の出口研や隣の研究室の国際研、解析研所属の博士・修士の学生さん等も一緒に参加しました。今回、初めて参加した APSA では、今、世界の都市計画・開発でもっとも注目されている中国が、ここでも話題の中心になっていることを聞いて、見て、感じる事ができました。そして、創造都市づくりを通して歴史・文化再生、開発を進めている台湾の今を体験することもできました。2年に一度開催の APSA が20歳になった今年は、西村先生のファンが増えるなど、楽しいこともたくさんありの大会となりました。



▲ Happy 20th Birthday, APSA!

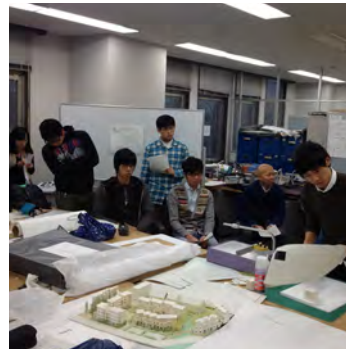
	発表者	題目
PhD,OB	V ボンサン	Religious Facilities and Urban Planning: Conflict between Conservation and Development around Wat Mangkorn
PhD,OG	森 朋子	The Study on the Peculiarity of Villages for Cultural Landscape Conservation
D2	李 蕾	Joint City - between Old Walled City and New Grid Town
D2	宋 知苑	Regenerating the Historic Urban Environment on the Fringe of the Greater Tokyo Area, Japan: Processes of Reusing Historic Buildings in the Historic District of Sawara, Chiba Prefecture

M1 渋谷・演習奮闘記

M1 渋谷 政秀

今秋入学して以来、学部の演習に参加しています。都市工出身の方はみな経験されていると思いますが、学部の演習は2年次から2年間かけ、建物・敷地レベルから地区、都市圏レベルまで、様々なスケールの計画とデザインに取り組んでいくというもの。僕は現在その中で最初の2年生のクラスに参加しており、ここでは都市計画の基礎的な技能の習得を目的に、都市空間の分析や、製図・模型製作、集合住宅の設計などを行っています。

本業の修士課程での活動もあるので、時間をいかにうまく使うかを意識してはいるのですが、中々できていないのが目下の反省点。製図や模型製作など初めて経験することばかりで、段取りよく作業が進まず苦勞しています。とはいえその分学ぶことも多く、非常に勉強になっています。今後も卒業までどのような成果を上げたいのかを意識しつつ、頑張っていきたいと思っています。



▲模型の作り方のレクチャー



▲現在取り組んでいる課題の周辺模型

12月の予定

Information

12月1日～2日	大槌PJ現地調査
12月5日	M2修士論文中間発表
12月6日～8日	清水PJ現地調査
12月18日	張先生レクチャー(18:30)・忘年会(20:00-)
12月19日～20日	大槌PJ現地調査

✧ 編集後記

原 由希子

はやいところで今年もあと一ヶ月になってしまいました。やっと2013年という数字に慣れてきた頃(遅い)なのになあ…と毎年思っているような気がします。最近まちは此処彼処でイルミネーションがきれいに灯りはじめ、電車では初々しさあふれるスーツ姿でスケジュール帳にとらめっこする学生を目にするようになりました。私もその一人としていいスタートを切りたいと思います。2013年残りの一ヶ月がみなさまにとって有意義なものになりますように。